

福岡・小倉城跡こくらじょう

1 所在地 福岡県北九州市小倉北区内

2 調査期間 一 一九九八年(平10)九月～二〇〇一年一月
二 一九九九年四月～七月

3 発掘機関 (財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

4 調査担当者 山手誠治・中村利至久・川上秀秋・梅崎恵司

5 遺跡の種類 城郭跡・軍事施設跡

6 遺跡の年代 縄文時代～現代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

小倉城は、小倉に造られた中世後半から近世までの城郭である。



(小倉)

紫川と板櫃川に挟まれた河口に位置し、北流する紫川の西岸の木町台地に西郭が、東岸に東郭が築かれている。広さは、東西約2km南北約1・5kmである。慶長七年(一六〇二)以降の城主は細川氏、寛永九年(一六三二)以降は小笠原氏である。

小倉城跡は、ここ一〇年の間に七万㎡をこえる面積が調査されている。今回の調査地は、本丸の南側約二五〇㎡の所にある代米御蔵跡と御普請所跡である。代米御蔵は五〇㎡四方、御普請所は南北約一〇〇㎡の規模で、紫川を埋めた整地層から成っている。検出した遺構は門・米蔵・排水溝・井戸・土塁・石垣・堀・櫓などである。

木簡は、代米御蔵と御普請所の整地層及び堀から出土した。整地層は一六〇二年から一六二〇年代まで、堀は一八七五年以降のものである。時期は文献を基礎に絵図なども参考にしながら、出土した肥前陶磁器の年代幅により決定した。編年は大橋康二氏による。

他の文字資料には、石垣の石に書かれた墨書や刻印などがあり、そのなかには、元村上水軍の一門の「村上八郎左衛門」の名の墨書が含まれていた。

8 木簡の釈文・内容

一 代米御蔵跡

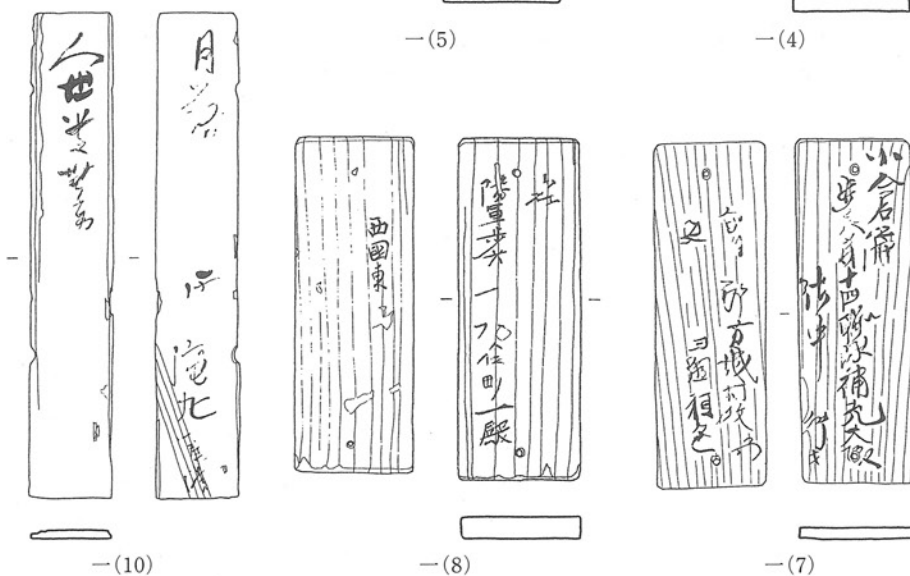
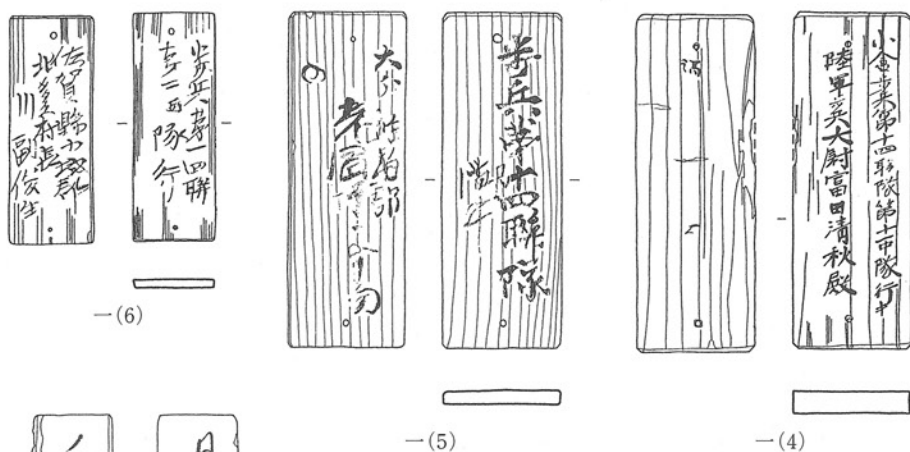
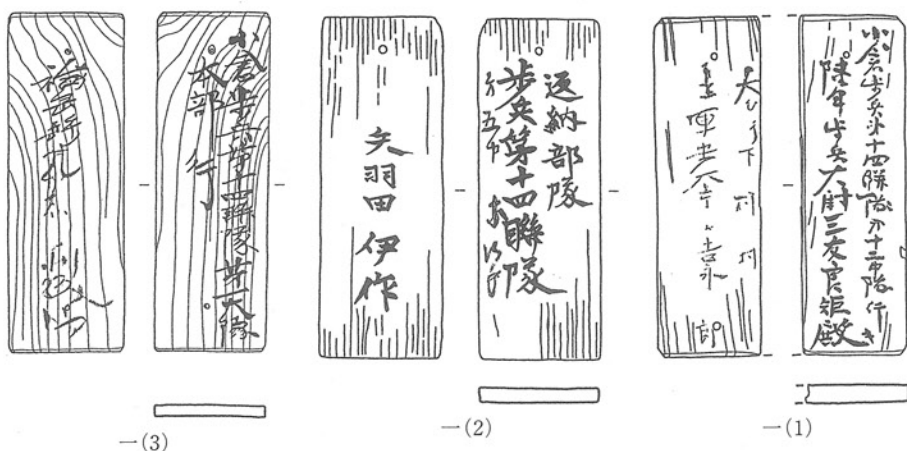
一 区堀跡

- (1) ・「小倉歩兵第十四聯隊第十二中隊行キ」。
陸軍歩兵大尉三友良矩殿

・「大分県下毛郡□□□村
陸軍歩兵□□□吉永□□郎

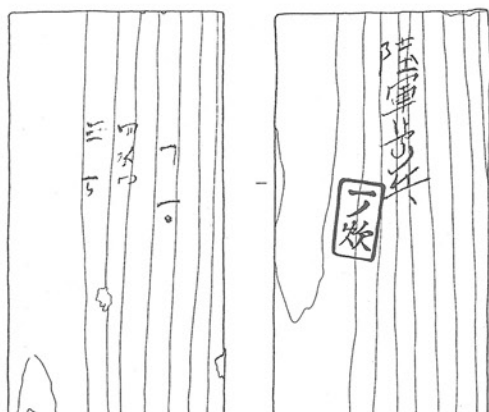
。」「
181×(55)×10 081

- (2) 「返納部隊
。歩兵第十四聯隊
第五中隊御中」
「。 矢羽田伊作」
183×64×8 011
- (3) 「小倉歩兵第十四聯隊第一大隊
。本部 行」
「。福岡県□□□□□□」
183×60×6 011
- (4) 「小倉歩兵第十四聯隊第十一中隊行キ
。陸軍歩兵大尉富田清秋殿」
「。□□」
181×62×12 011
- (5) 「歩兵第十四聯隊
。御中」
「。大分県日田郡
老風村役場」
180×62×8 011
- (6) 「歩兵第十四聯
第二中隊行」
「佐賀県小城郡
北多久村長
。川副俊生」
124×43×5 011
- (7) 「小倉□
。歩兵第十四聯隊補充大隊
御中 行キ」
「。田川郡方城村役場
□□□□□□」
182×59×7 011
- (8) 「。陸軍歩兵□□小倉町一殿」
「。西国東□場」
180×62×12 011
- (9) 「陸軍歩兵□□
「二ノ炊」(焼印)」
「□□□□
四水□□
西□□□」
215×113×8 011
- (10) 「月落□□露
月落□□ 躋旭□□」
「人卅貴□□」
258×44×5 011
- (11) 「大日本せんをいわいの
□□□□□□」
270×(32)×2 081
- 二区門脇北側石垣整地層十層
- (12) 「上白五斗」
(115)×24×5 019





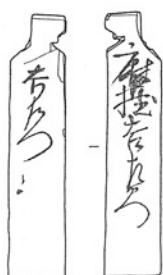
—(11)



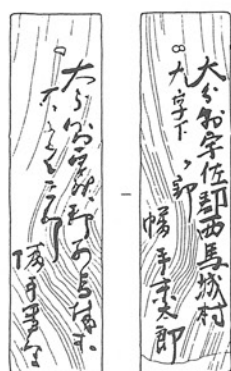
—(9)



—(12)



—(13)



—(14)



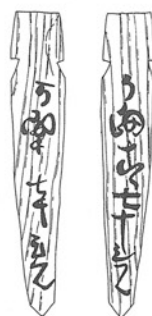
—(15)



二(1)



—(18)



—(17)



—(16)

(13) ・「く麻柱吉左エ門」

・「く吉左エ門」

141×29.5×5.5 032

二区堀跡

(14) ・「大分県宇佐郡西馬城村
。大字下□部

・「大分県宇佐郡西馬城村
。大字下□部

・「大分県宇佐郡西馬城村
。大字下□部

・「大分県宇佐郡西馬城村
。大字下□部

191×47.5×8.5 011

三区西北蔵整地層下層

(15) 「く若さまノし、をけ」

237×30×6 033

(16) ・「く進上まくわ
卅ノ内宝泰院」

・「く求菩」

146×38×7 032

(17) ・「くかます七十れん」

・「くかます七十れん」

161×28×12 033

三区北蔵下第十一トレンチ

(18) ・「みつかん

・「四百八十

(41)×15×4 019

(1) (8)、(14)は短冊形で、端部に紐を通したとみられる、貫通した孔があげられている。(12)(18)は上部は山形に切り、下端は欠損。

二 御普請所跡

整地層下地山層

(1) ・「く藤四郎藤七」

・「く十一月廿九日」

105×20×3 033

なお、すべての釈文は北九州市立自然史・歴史博物館の永尾正剛氏による。

9 関係文献

(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室『小倉城御普請所跡』(財)北九州市埋蔵文化財調査報告書二五八(二〇〇一年)

同『小倉城代米御蔵跡Ⅱ』(財)北九州市埋蔵文化財調査報告書二七二、二〇〇二年

同『小倉城代米御蔵跡Ⅲ』(財)北九州市埋蔵文化財調査報告書一九三、二〇〇三年

(梅崎恵司)